

会社名：社会福祉法人 清和福祉会
所在地：長崎県諫早市長田町 2781 番地 1
事業内容：老人福祉、児童福祉
労働者数：196 名（令和 7 年 12 月現在）
平均年齢：51.1 歳



①治療と仕事の両立支援に取り組んだきっかけをお聞かせください。

健康診断でがんが診断された職員が休職し治療することになりましたが、復職支援について経験がなく「どのようにサポートすればよいのか」わかりませんでした。今回に限らず、今後も治療と仕事の両立支援が必要な事例が増えていくと考えて、両立支援コーディネーターの研修を受けて両立支援に取り組み始めました。

②両立支援を行うための仕組みや支援者・支援制度をお聞かせください。

両立支援や労務管理の研修を受けて、「治療と仕事の両立支援手順」「職場復帰支援の手順」についてフローチャートやガイドラインを作成しました。

手順には、支援の申し出があった場合に円滑な対応ができるよう、本人（職員）、人事労務担当者、上司、同僚、産業医等（産業保健スタッフ）の関係者の役割と対応手順を整理しました。

〈相談窓口〉

人事担当を窓口として職員の意思を尊重しながら社会保険労務士や産業保健総合支援センターに相談しています。

定期的に連絡を取り、状況の把握や傷病手当金の申請について説明をしています。
会社としては取り組み始めたばかりで、分からないことがあれば産業保健総合支援センターに相談しています。

③貴事業場の治療と仕事の両立支援の具体的事例をお聞かせください。

がんで療養のため休職した職員が治療を行いながら復職した事例がありました。

休職期間は傷病手当金を申請しました。治療後の復職にあたっては主治医に意見を求めるとともに、作業内容や勤務時間の短縮などを本人と話し合い復職を開始しました。その後は本人に負担がかからないように配慮し、徐々に勤務時間を延ばしました。

④両立支援に取り組まれたことによって生じた良い効果についてお聞かせください。

治療のため休職する職員の中には「会社に迷惑をかけるから早く復職しなければ」と焦る職員もいます。まずは治療に専念して「復職できる」という会社の方針を示すことで、職員が安心し人材の定着にもつながると感じました。また、相談を聞くことで、復職への焦りや精神的な不安を軽減でき、相談した職員からは「嬉しかった」との声も頂き、取り組んで良かったと思いました。

病気やケガは誰にでも起こりうることで、両立がうまくいかず経験ある職員の退職は会社にとっても大きな問題です。両立支援に取り組むことで、職員を大切に思い、いい事例をつくることで会社全体に良い雰囲気ができ始めています。

⑤その他

フローチャートやガイドラインを作成しましたが、実際に事例が発生すると判断に迷うことが多々あります。その時は産業保健総合支援センターに相談して助言をいただいております、大変心強いです。

個別訪問支援では「担当者 1 人で対応するのではなくチームを作った方が良い」「担当者が出来なくなれば支援が止まってしまう」との助言を頂きました。これまでは担当者 1 人で対応していましたが、最近は両立支援を必要とする職員が増え、確かに 1 人では大変になっていました。

今後はフローチャートやガイドラインを管理監督者などの関係者と共有し、現場での活用を検討したいと思います。

職員は貴重な人材であるため両立支援や復職支援は会社にとっても特に力を入れなければいけない課題と考えています。

